

令和6年度 岡山大学教育学部附属中学校 学校評価書

学校教育目標	「自主自律 豊かな心で たくましく」を体現する生徒の育成						
めざす子ども像	○ 個性を伸ばし、自ら学び続ける生徒 ○ 心身を鍛え、何事にも積極的に取り組む生徒 ○ 自ら判断し、正しく行動する生徒 ○ 互いの人格を尊重し、協調・奉仕する生徒						
第4期中期目標	○学習指導要領が目指す資質・能力を育成し、令和の日本型教育を構築することで地域の中等普通教育を先導する。 ○新たな価値を創造し、世界の革新に貢献する人材となる基礎を生徒が身に付けられる教育課程の在り方を追究する。 ○上記の教育研究・教育実践を基盤とした教育実習を充実することで、将来の教育界を担う教員の育成に努める。						
校長	前田 潔	学級数	15 学級	児童生徒数	537 人	教職員数	32 人
学校関係者評価委員	古廣俊三 若林昭吾 難波秀明 藤原佳代子 森一生 木村功						

【1. 前年度の評価と課題を踏まえた現状分析】

① 授業改善・学習者理解	④ 保護者・地域連携
・意欲的、積極的学習について生徒、保護者とも評価の改善が見られた。引き続き主体的に学習に取り組める授業づくりを全教科で追究する。 ・家庭学習が習慣化していない生徒が増えている。メタ認知と自己調整力を高める手帳アプリを導入し、生徒一人一人の状況を把握して支援する。	・クラウドを利用して保護者や生徒と情報を共有し、必要に応じて担任や学年団教員が欠席者や不登校生徒へ個別に対応しているため、保護者の肯定的な割合は96.4%と高い。本年度も継続して学校と家庭を繋ぐ効果的なICT活用を通して教育活動の質の向上を目指す。
② 教育研究・幼小中一貫教育	⑤ 環境整備・安全管理・業務改善
・総合的な学習の時間の指導を抜本的に見直し、高校の総合的な探究の時間へと発展、接続できる中学校3年間を見通したカリキュラムを確立する。 ・附属小中学校の互いの研究発表会へ参加する教員数がコロナ禍前に戻りつつある。連携して授業づくりや公開授業に取り組む機会を増やす。	・学びを止めないことを目的に、校内のどこからでも授業の配信と受信ができるよう、ICT機器の整備と活用を継続して行っている。生徒・保護者・教員とも評価が高い状態を維持し、本校の強みとして教育DXを推進する。 ・教育活動がコロナ禍前に戻ったが超過勤務時間は減少している。「働き方改革」によって業務が効率的に改善されたと考えられる。来年度も様々な面から「働き方改革」を実施していくが、教育の質を担保し、向上を図る視点から、今まで行ってきた「働き方改革」を検証し、必要に応じて修正する。
③ 教師教育・教員研修	
・昨年度、試験的に岡山県内の公立中学校教員の体験型参加研修を実施し、参加教員から好評を得ている。本年度も引き続き取り組む。	

【2. 自己評価】

評価領域	重点課題	具体的方策	成果指標・評価基準	達成状況の分析	評定
① 授業改善・学習者理解	生成 AI 等を活用した主体的・対話的で深い学びの在り方の追究	○生徒・保護者・教員が生成AIを理解し、教育活用への共通理解を図る。 ○全教科が実践発表会を開催して授業を公開し、外部の参加者から評価を得る。	生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	共通 (6) 生成AIを活用した授業は高い評価を得ているが、AIドリルの有効活用が十分なため9割に届いていない。	3
	指導と評価を一体化したフィードバックの推進	○シラバスで生徒・保護者へ評価計画を通知し、評価の意義の理解を図る。 ○単元ごとに評価をフィードバックし、賞揚や改善の視点を示して支援する。	生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	生徒・保護者 (18)、教員 (19) 指導と評価の一体化を目指した単元計画の共有も2年目となり、定着しつつあるものとする。	4
② 教育研究・幼小中一貫教育	中高の系統性を踏まえた総合的な学習の時間のカリキュラム開発	○3年間の見通しがもてるようにカリキュラムを示し、学年間の交流を行う。 ○10月と2月の発表会で学年を超えて議論や対話を通して探究を深める。	生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	生徒・保護者 (22)、教員 (23) 総合的な学習の時間を核としたカリ・マネを推進し成果が現れているものとする。	4
	小中の教科の系統性に重点を置いた一貫教育の推進	○互いのカリキュラムと研究内容を把握し、一貫教育の視点から協議を行う。 ○附属小学校の研究発表会の授業づくりに関わるカンファレンスを開催する。	教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (70%以上) 2 (50%以上), 1 (50%未満)	教員 (25) 教員の発表会への相互参加もほぼ全教科で行った。幼小中一貫して子どもを育てる環境が醸成されつつあるものとする。	1
③ 教師教育・教員研修	教師力の向上に向けた校内外の研修の実施	○公立中学校へ案内・募集を行い、全教科で体験型参加研修を計画する。 ○チーム担任制を実施し、学級経営や生徒指導に関するOJTを日常的に行う。	教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	教員 (24) (26) 発表会や校内外の研修を通して教師力が高まった。特にチーム担任制による能動的かつ自然発生的なOJTによる指導力の高まりが見られる。	3
	教師の魅力を実感できる教育実習の充実	○教師の魅力を実感できるよう、生徒の実態に応じた授業づくりを指導する。 ○教師として成長を実感できるよう指導教員との対話の時間を十分確保する。	教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	教員 (28) 自らの働き方をメタ認知し、効率的な働き方を試行錯誤する姿をモデルとして実習生に伝えることができています。	4
④ 保護者連携・地域連携	教育DXの推進を前提とした、保護者との連携を深める方策を追究	○ICTによる効率化と対話による個別に合わせた指導のベストミックスを探る。 ○参観週間や各行事への保護者参加を促し、機会を捉えて対話で連携を深める。	生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	共通 (7) 保護者 (21) 教員 (22) クラウドを活用した連絡が生徒・保護者・教員に定着してきているものとする。	4
	地域と連携した教育活動の充実	○地域や地域の人材を活用した総合的な学習の時間のカリキュラム開発を推進する。	教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	教員 (23) 同窓会や外部団体の協力をいただきながら、生徒一人一人の課題解決に応じてそれぞれの活動を創出できている。	4
⑤ 環境整備・安全管理・業務改善	新しい時代の学びと創造的学習空間の形成を見据えた学習環境の整備	○令和の日本型学校教育を想定した学習環境の整備に努める。 ○1, 2号館改修に伴った新しい時代の学びと創造的学習空間を創造する。	生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	生徒・保護者 (19) 教員 (20) 施設が老朽化しているが各教科が工夫して学習環境を整備している。新しい時代の学びを実現する1・2号館改修に全教職員で取り組んでいる。	4
	生徒の安全・安心を高める危機管理体制と対応の充実	○教員の人権意識を高め、いじめを許さない学校環境作りを徹底する。 ○機会を捉えて小研修を行い、教員一人一人の危機管理能力を高める。	生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)	共通 (2) 生徒・保護者 (15) (16) 教員 (16) (17) 生徒が安心して居場所といじめを主体的に解決する学級風土の項目が上昇傾向にあり、過去最高値を示している。	4

【3. 学校関係者評価】

取組状況に対する意見・要望等	評定
岡山県内の教育DXを牽引できるような取組を今後も続けてほしい。 個別・最適化の観点から従来の宿題についてゼロベースで見直すとともに、アダプティブラーニング(個別最適化)の視点からAIドリルの活用について検討し、来年度の当初から実施してほしい。	4
生徒の教科の学びを関連付ける項目が低下していることが課題である。要因を更に分析して、教科の学びから生徒が主体的に課題を設定し、解決する力を育成してほしい。 小学校の総合的な学習の時間のカリキュラムを連携して、一貫教育をよりいっそう推進する必要がある。	2
「チーム担任制・岡大附中モデル」について保護者や生徒のアンケート調査を基にブラッシュアップし、令和の日本型教育の基盤となる取組を続けてほしい。 「教職離れ」を食い止め、岡山大学生の教職への就職率が高まるよう、令和の教育実習の在り方を模索し続けてほしい。	3
附属中の教育DXは、県内の先導的なモデルとなっており、今後も改善を続けてほしい。今後は、負担が少なく各学級の様子が伝わるICT活用の検討が必要である。 地域連携は、学校の性格上難しい面があるが、同窓会や各団体との連携に取り組む充実させてほしい。	4
1・2号館改修に伴って、生徒が対話を通して学ぶ新たなカリキュラムの開発や授業の充実が重要である。 学年始めに重点的に人間関係作りや常に見取りを行うカリキュラムへの変更や、PTA活動の一環としていじめの研修は有効であった。来年度は、生徒へのいじめ問題について考えを深める授業をより充実させてほしい。	4

	<p>教育の質を担保・向上させながら業務改善を目指す働き方改革の推進</p>	<p>○教育活動の成果と課題を一つ一つ洗い出し、次年度の改善策を検討する。 ○実施した働き方改革を教育の質の視点から教育課程検討委員会で問い直す。</p>	<p>生徒・保護者・教員アンケートの肯定的な回答の割合 4 (90%以上), 3 (80%以上) 2 (70%以上), 1 (70%未満)</p>	<p>共通 (1) (3) (4) 教員 (27) 教員の勤務時間数は、令和4年から年間10%以上の割合で削減が進んでいるものの、「意欲的・積極的な学習」や「理解しやすく主体的に学習に取り組む」項目の数値は一貫して上昇している。これは、年間を通じて開催している教育課程検討委員会で各教育活動の成果と課題を一つ一つ検討し、質を担保しつつ効率化を図った成果と考える。</p>	3	<p>「教員のワークライフバランス」の項目が50%台の低い状態が続いているのが課題である。「公立校とは使命が異なるため仕方が無い」と諦めるのではなく、国立大学附属校として、先導的な教育の在り方を追究しつつ望ましい働き方について検討していく姿勢を全教職員で共有し続けることが重要である。</p>
--	----------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【4. 総括と次年度の重点課題】

<p>■総括</p> <p>①授業改善・学習者理解、④保護者連携・地域連携、⑤環境整備・安全管理・業務改善については、アンケート調査から概ね目標を達成できていると考えられるが、AIドリルの活用とチーム担任制については改善が必要な部分がある。</p> <p>②教育研究・幼小中一貫教育については、幼小中一貫して子どもを育てる環境が醸成されつつあるものの、小学校のカリキュラムと連携して、一貫教育をよりいっそう推進する必要がある。</p> <p>③教師教育・教員研修については、発表会や校内外の研修を通して教師力が高まったが、「チーム担任制・岡大附中モデル」については保護者や生徒のアンケート調査を基に更なる改善が必要である。</p>	<p>■次年度の重点課題（※大学への要望を含む）</p> <p>○「教科の学び」と「領域（総合的な学習の時間・道徳・特活）の学び」の関連性を強化 生徒の教科の学びの関連付けの意識が低下している要因を分析し、主体的な課題設定と解決能力の育成を促進する。また、小学校とのカリキュラム連携を強化し一貫教育を推進する。</p> <p>○「チーム担任制・岡大附中モデル」の改善 本年度後期に試行したチーム担任制に関する保護者や生徒の意見を基に改善し、令和の日本型教育の基盤となる取り組みを継続する。</p> <p>○創造的・協創的な空間を前提としたカリキュラムの開発及び授業改善 1・2号館改修後に創出される「STEAMラボ」、「Well-beingスペース」、「eラボ」等の教科融合型教室や生徒の発信や交流、ディスカッションを促す複数の「ラーニングコモンズ」を前提とした21世紀に必須の資質・能力を育成するカリキュラム開発や授業の充実を図る。</p> <p>○いじめ対策を継続して強化 人間関係構築を重視した特活や道徳のカリキュラムの改善や、PTAと連携して生徒がいじめ問題について深く考える授業や取組を充実させる。</p> <p>○教育DXの推進 岡山県内の教育DXを牽引するため、AIドリルの活用を含めたアダプティブラーニング（個別最適化）の視点から改善を行い、来年度の早い段階から実践を進める。また、県内先導的な教育DXモデルとして、各学級の状況が伝わる負担が少ないICT活用方法を検討し、改善を続ける。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------